

南アフリカ 昨年末までの生食用ブドウ輸出は29%減少

FreshPlaza 2024年1月8日

南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)は、2023/24年度産ブドウの2023年末(第52週)までに輸出検査を受けた数量が昨年の同時期より6%多い合計2,092万箱(4.5kg相当)であったと報告した。第52週までの輸出量は合計987万箱(同)で、前シーズンより29%少なかった。

SATIの最新情報では、「現在5つの産地すべてで(収穫したブドウを)梱包中である。北部の複数の州とオレンジリバー地域では、今後3~4週間で梱包を完了する見込みである。第52週に輸出された上位3品種は、プライム、アーリースイート、タウニーシードレスであった」とされている。

ケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)は、岸壁と船舶の間の積み下ろし用(STS)クレーン9基がすべて稼働を再開し、21基のゴムタイヤ付きガントリークレーン(RTG)が利用可能であることを確認した。現在、2つの岸壁が稼働している。CTCTと多目的ターミナル(MPT)は、ここ数週間、機器の故障と強風により困難な状態にあった。同港の生産性は、依然として最適な効率を得るために必要な水準を下回っている。

地域別の状況

北部地域では現在、オータムクリスプ、スイートグローブ及びクリムゾンの各品種を梱包しており、今後3~4週間で完了する見込みである。現在のデータに基づくと、収穫量は期待された量をわずかに下回ると予想される。クリスマスの週末には一部の地域で雨が降ったが、収穫に影響はなかった。全体として、果粒のサイズは良好で収穫物の品質は良い。ここ数日、気温が下がったため、糖度の上昇がさらに遅くなった。当面は好天が予想されている。

オレンジリバー地域では現在、トンプソン、スイートセレブレーション、ティムコの各品種を梱包しており、約85%が完了している。この地域では今後4週間で梱包を完了すると見られる。カカマス、アピントンの両地区ではここ数週間に多少の雨に見舞われたが、ブドウへの影響はなかった。全体として、果粒のサイズは良好で収穫物の品質は良い。当面は好天が予想されている。

オリファンツ川地域のすべての産地で現在梱包中である。早生品種は予想よりも10~15%少なかった。中生及び晩生の品種は、昨シーズンよりも7日早くなっている。当面は好天が予想されている。EUでは1月6日~7日に最初の到着が見込まれている。

ベルク川流域では梱包が順調に進んでいる。この地域では概ね気温が高く雨の少ない天候であった。12月には雨が降ったが、ブドウへの影響はなかった。果粒重は昨年よりも軽くなっているが、これはおそらく9月の涼しい天候によるものである。一部の晩生品種は、昨シーズンよりも7日遅い。

ヘックス川地域では収穫が順調に進んでおり、赤ブドウと黒ブドウの色付きが良く、果粒の品質と大きさも良好であると報告されている。先週末には多少の雨が降ったが、ブドウへの影響は最小限で、収穫への影響はないと予想される。